

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年12月20日

事業所名 放課後等デイサービス オリーブ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			部屋数が多いので区切って使用している。	広さを活かし様々な用途に対応できるようにしています。
	2	職員の配置数は適切である	100%				より良い療育機会提供のため多種多様な人材確保を考えております。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	86%		14%	古民家を利用しているので限界がある。	賃貸物件のため全体的な工事には踏み込めない部分があります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%		14%		職員間のフィードバックを重視し問題に取り組む姿勢を整えてまいります。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%			保護者様との情報共有はアンケート以外の手法でも行っております。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%		初回のため。 ※掲載予定	初めての公開となります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%				職員間での情報共有を行い業務の改善に努めております。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	14%			視野を広げられる機会になるので有益な研修は受講してもらっています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				それぞれのご利用者様に合わせた計画を策定し柔軟な対応を心掛けております。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%		14%		まだまだ活用しきれいでないので実用に足る情報収集から始めてまいります。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%			不十分な点もございますのでチームでの動き方から精査してまいります。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	86%	14%			柔軟に対応するよう徹底しております。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	86%	14%			週末に外出支援を行うなど特別感のある活動を取り入れております。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	86%	14%			状況に応じた対応を各々実行できるよう職員の向かう方向を揃えてまいります。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%		14%	課題として認識している。	基本だけでなく応用も含めた打合せができるよう体制を整えてまいります。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%				支援の質と幅を広げるために必ず行うようにしております。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				後から見返すことも考慮しきちんと記録を残すよう徹底しております。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%			PDCAサイクルを基本としご本人の状況を注視しながらフィードバックを行っております。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	86%	14%			複合的な支援となるよう職員の意見を取り入れつつ行っております。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				会議により発案された内容は職員間で共有し療育の質を上げることに注力しております。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%				必要があれば会議の場を設ける等、状況に合わせた対応を行っております。	
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%		14%	医ケア児がいない。	現段階では医ケア児の受け入れ体制が整ってはおりませんので受け入れが難しい状況となっております。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	71%		29%		必要に応じて対応可能な体制を整えております。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	43%	29%	28%	該当者がいない。	現段階では該当者がおりませんが将来的には情報共有可能な体制となっております。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	86%	14%		分からない。	現状、充分とは言えませんが積極的に助力を求めてまいります。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	71%	15%	14%	分からない。	今後、積極的に機会を設けてまいりたいと考えております。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	71%	15%	14%	分からない。	名前を連ねることはできておりません。機会を求めてアプローチしてまいりたい所存でございます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86%	14%		気になったことをスタッフ間で共有する風土が醸成されている。	アナログ、デジタル、双方のツールを用いてコミュニケーションを取れる環境を整えております。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	71%	29%			お話を伺う機会を積極的に設けております。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				オープンな運営を心掛けておりますので全て開示させていただいております。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				保護者様と職員との間に信頼関係が結べていると考えております。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86%		14%		今後の課題として受け止めております。保護者様同士で横の結びつきを強くできる機会を設けられるよう調整してまいります。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				苦情の受付体制は整えておりますが対応の精度を高めてまいります。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				オリーブ通信という機関紙を発行し保護者様へお渡ししております。
	35	個人情報に十分注意している	100%				個人情報の取り扱いに関しては鍵付き書庫等を使用し厳重に行っております。

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				口語や文字を使用する言語コミュニケーション以外にもボディラングージ等の非言語コミュニケーションも駆使しスムーズな情報伝達が行えるように工夫しております。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	71%	29%			2月に開催させていただきました。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	71%	15%	14%	分からない。	マニュアルの周知徹底を行い、危機意識の平均水準を高めてまいります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	71%	15%	14%		対応マニュアルの周知を強化して行っております。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	14%			知識の幅を広げるために研修参加の機会を設けてまいります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	86%		14%		やむを得ず身体拘束を行う可能性が発生し得る場合には、ご説明を行いご同意をいただいた上で適切に実行させていただきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	71%	15%	14%		生命に関わる問題ですので特に慎重に取り扱ってまいります。周知徹底はもちろんのことご利用者の好き嫌いとは別物として受け止め適切な対応を実行してまいります。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	86%		14%	課題として捉えている。	想定される危険は事前に取り除いた上で、運営していく中で発生しうる可能性を考慮し未然に防ぐ体制をより強固なものとしてまいります。